

實施報告  
參考資料

# 講 演

演 題 「想定を超える災害にどう備えるか  
～今求められる地域の防災力、個人の防災力～」

講 師 片 田 敏 孝 氏  
群馬大学大学院工学研究科 教授

<講師プロフィール>

1960年 岐阜県生まれ。

## 現 在

群馬大学広域首都圏防災研究センター長

群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻 教授

東京大学大学院、豊橋技術科学大学、静岡大学 客員教授

専攻は、災害社会工学。

災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開している。特に、釜石市においては、平成16年から児童・生徒を中心とした津波防災教育に取り組んでおり、地域の災害文化としての災いをやり過ごす知恵や災害に立ち向かう主体的姿勢の定着を図ってきた。また、内閣府中央防災会議をはじめ、国・外郭団体・地方自治体の多数の委員会、審議会に携わり、研究成果を紹介しながら防災行政の推進にあたっている。

主な学会活動として、日本災害情報学会理事、日本自然災害学会理事がある。

## 著 書

「みんなを守るいのちの授業～大つなみと釜石の子どもたち～」(NHK 出版)

「子どもたちに『生き抜く力』を～釜石の事例に学ぶ津波防災協力～」(フレーベル館)

## ■想定を超える災害にどう備えるか ～2011年 東日本大震災を事例に～

- 三陸沖～宮城沖～福島沖～茨城沖の 500km × 200km にわたる震源域…… M9.0
- 2つの意味での想定  
ありえることとしての想定……今回の事態はあり得ることとして想定はできた  
防災上の想定……既往最大津波を想定した防災行政では、その想定外力を超えた
- 「想定を超えた」→「想定が甘かった」→「想定を見直そう」という議論となる。  
しかし、想定外力を無尽蔵に上げることが本質なのか？  
人為的に守れば守るほど、住民の防災に対する脆弱性は高まる
- 今回の大震災、何が問題だったのか？……「**想定にとらわれすぎた防災**」  
行政：防災施設の整備により想定までの災害を防ぎきることに邁進  
その整備が完了しないが故に、それ以上の災害を防ぐことに思いが及ばない  
→超過外力に対して無防備な防災体制  
住民：防災施設の整備→被災頻度の低下  
……災いをやり過ごす知恵の喪失、防災における行政依存の高まり  
防災行政により守られているという過信  
「あの防潮堤があれば大丈夫」「ハザードマップの浸水想定区域外だから大丈夫」

## ■想定外を生き抜く力 ～大津波災害から生き抜いた釜石市の子どもたちに学ぶ～

- 釜石市の小学生 1,927 人、中学生 999 人のうち、津波襲来時に学校の管理下にあった児童・生徒については、全員の無事が確認された（ただし、津波襲来時において学校管理下でなかった児童・生徒のうち、5名が津波の犠牲となった）
- 釜石の津波防災教育で伝えてきたこと  
大いなる自然の営みに畏敬の念を持ち、行政に委ねることなく、自らの命を守ることに主体的たれ  
この信念に基づく「避難3原則」：想定にとられるな、最善を尽くせ、率先避難者たれ  
『想定にとられるな』
  - －行政の防災はあくまで想定外力を想定したもの。  
相手は自然、その想定を超える事態も当然あり得る
  - －ハザードマップに示されるような浸水想定区域は、あくまで防災施設を建設する際の“想定外力”であって、それ以上の災害が起こる可能性があると思え『最善を尽くせ』
  - 大いなる自然の振る舞いの中でできることは、その状況下で最善を尽くすことだけ  
「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとれ『率先避難者たれ』
  - －「正常化の偏見」を打ち破る  
非常事態時、人は避難しないと決めているのではなく、避難するという意思決定ができないだけ
  - －いざというときには、まず自分が率先して避難すること。その姿を見て、他の人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能となる
- 子どもたちへの防災教育……**姿勢の防災教育**  
防災に対して主体的な姿勢を醸成する。
  - ×「脅しの防災教育」……外圧的に形成される危機意識は長続きしない
  - ×「知識の防災教育」……主体的な姿勢がないまま知識を与えることはかえって危険  
→想定にとられる

## ■釜石で取り組んできた津波防災教育

- ・子どもを中心とした防災教育…… 10年経てば大人になる、さらに10年経てば親になる  
高い防災意識や災いをやり過ごす知恵が世代間で継承される→地域に災害文化として根付く
- ・津波防災教育の家庭への浸透を図る  
子どもを介して親の関心を引き出す……親子で津波防災教育に取り組む
- ・「津波てんでんこ」の意味を再考する  
津波てんでんこの本質：自らの命に責任を持つこと、家族との信頼関係を築くこと
- ・子ども津波ひなんの家 ～津波防災教育を地域に波及させる  
住民一人だけではなかなか避難しようとしませんが、近所の子どもが駆け込んでくると、その子どもを預かることになる。子どもの命を守ることで、自らの命も守ることにつながる。
- ・津波防災教育を釜石市内全校に広める  
市内全校の教職員を対象とした津波防災講演会の実施  
「津波防災教育のための手引き」の作業部会の設置……作成を通じて姿勢を醸成
- ・釜石に住むための“お作法”としての津波防災  
自然の恵みに近づく＝自然の災いに近づく  
災いをやり過ごす知恵を持つことは、豊かな自然の中で生活するための条件
- ・伝統行事として、次世代へ語り継ぐ  
宮古島の伝統祭祀「ナーパイ（縄張）」…… 1771年明和の大津波を契機として津波除けの祭り  
釜石市の“陣屋遊び”……遊びを通じた津波避難所の整備・避難訓練

## ■これからの防災、如何にあるべきか ……「人が死なない防災」

### 【なぜ、これだけ多くの犠牲者がでたのか】

- ◎身体的理由から避難することができなかった……高齢者、災害時要援護者等
- ◎状況的に避難することができなかった……消防、警察、役所、介護者（家族を含む）等
- ◎想定にしばられていたため、十分な避難をしなかった

### 【これからの防災に求められること】

- ◎防災の一義的な目的は災害ごときで人を死なせないこと  
帰宅困難者問題や避難生活・避難所運営に係る問題、復旧・復興に係る問題など、いわば「生き残った人のための防災」はその次。
- ◎災害時やるべきことは、想定にとらわれることなく、そのときできる最善の行動とるだけ……災害時に多くの命が救われるために、平時のうちにできることを積み重ねる
  - ・「誰がやるべきか」→「誰ならできるか」という視点をもった地域防災  
大いなる自然の猛威に対して、『誰がやるべきか』という議論は不毛
- ◎東日本での悲劇を繰り返さないために
  - ・人は忘却するもの。それを前提に、それでも3.11大津波の教訓が活きる文化の醸成が必要



# ボランティア活動別分科会 一覧

NO	分野	項目	テーマ（内容） / 講演者、コーディネーター、発表者（氏名、所属）	会場
1	高齢者	テーマ	<b>「わがまちの健康づくり」</b> ～ 紙芝居、食育人形劇、コーラス、ももしゃこ体操 ～	大ホール
		講演者	氏名： 森 岑 而 氏 所属： ゆくはし健幸つなぎ隊 隊長 健幸つなぎ隊の皆さん	
2	障害児者1	テーマ	<b>「現代ことば事情」</b>	506 研修室A B
		講演者	氏名： 佐々木 謙介 氏 所属： 元NHKアナウンサー	
3	障害児者2	テーマ	<b>「障害者の自立支援について ～働くとは～」</b>	501 研修室
		コーディネーター	氏名： 仲光 志賀子 氏 所属： 筑紫地区障害者就業・生活支援センター所長	
		発表者	川原 敦 氏 福岡県 障害者福祉課	
			岩見 正仁 氏 宮若市手をつなぐ親の会	
三苫 卓巳 氏 社会福祉法人 福岡コロニー（糟屋郡新宮町）				
4	子育て1	テーマ	子どもたちの笑顔があふれるまちづくり <b>「生きる力を考える～そうだったのか！ヒトの育ち」</b> ～0歳から幸せな子ども時代を保障する環境づくりを！～	セミナーA B
		講演者	氏名： 辻 広明 氏 所属： 久留米晴明保育園 園長	
5	子育て2	テーマ	<b>「子育て支援のいま昔」</b>	視聴覚室
		コーディネーター	氏名： 近藤 幸恵 氏 所属： NPO法人子育てネットワーク春日 顧問	
		発表者	棚橋 美智子 氏 日の里子育てサロン代表（宗像市）	
			星野 敦子 氏 育児支援グループマミィ代表（福岡市）	
安倍 幸子 氏 子ども広場サロン代表（福岡市）				
6	環境	テーマ	<b>「身近な環境づくり」</b>	508 研修室A
		コーディネーター	氏名： 小出 秀雄 氏 所属： 西南学院大学経済学部 教授	
		発表者	今村 利光 氏 さるこいウォーキング実行委員会（大木町）	
中村 曜子 氏 環境クラブ（小郡市）				
7	青少年健全育成	テーマ	<b>「心豊かな子どもを育てる」</b>	508 研修室B
		コーディネーター	氏名： 山田 忠 氏 所属： 元小郡市青少年健全育成市民会議事務局長	
		発表者	横大路 祐典 氏 NPO 法人子育てネットワーク春日（春日市）	
			松尾 一機 氏 飯塚市熟年者マナビ塾	
井上 孫紹 氏 つくし路100km徒歩の旅実行委員会（筑紫野市）				

# 「ふくおか“きずな”フェスティバル」ボランティア活動別分科会

## 障害児者2分科会発表内容

宮若市手をつなぐ親の会 岩見 正仁

○ 我が子との縁・きずな、家族のこと

○ 我が町、宮若市「ひと・みどり・産業が輝く新たなふるさと」

○ 図書館を核とする生涯学習拠点施設「宮若市リコリス」の建設

- ・ 町の合併（若宮町・宮田町）
- ・ 市の障がい者福祉計画
- ・ 障がい者自立支援法
- ・ 三障がいー身体・知的・精神

○ 障がい者にとっての就労とは

## 「障害者の自立支援について ～働くとは～」

社会福祉法人 福岡コロニー  
障害福祉サービス事業所 なのみ工芸  
三苦 卓巳

### ① 「自立」・「働く」を考える

なのみ工芸は、主に知的障害を持たれている方が、一般就労に向けた訓練を行う「就労移行支援事業」と、福祉的就労を行いながら社会参加する「就労継続支援B型事業」のいずれかを選択し通所利用されています。私たち施設職員はそのことを前提に利用者本人、家族と共同学習を進めながら、自立支援を行っています。

「自立」や「働く」といったことを考えるとき、利用者一人ひとりのニーズ(生き方)に合ったサービスを提供できているかが最も大切にすべきことと考えています。

就労移行支援事業を利用されている方は、一般企業への就職を最終目標に掲げ、まずは施設内での作業や挨拶など基本的なマナー講習を通じて一般企業での実習に向けた準備を行います。公共交通機関を利用した経験が少ない方であれば、職員が通勤同行練習を、施設利用時間を異なる実習時間が設定されれば、それに向けた事前準備を行います。企業での実習も、初めてチャレンジする方は3日程度、半日からスタートし、徐々にフルタイムの勤務に対応できるよう期間をかけ実施していきます。実習が無事に終了すると、雇用されることを目標に、更に実習経験を積み重ねていきます。「雇用」といってもパート契約が多いのが現状ではありますが、利用者本人にとって最良の「働き方」が、フルタイムなのかパートなのかということも含め、検討した結果であれば問題ないことですし、本人の人生が、施設利用よりも充実したものとなるのであれば、パート勤務であっても良いと考えています。実際に家族と離れ地域での生活を想定した場合、金銭的な課題が出てきますが、終日の施設利用で得る「工賃」よりも半日のパート労働での収入が時として多いこともあります。

一方、就労継続支援B型事業を利用されている方はどうかというと、「自立」や「働く」ことの意味が、一般企業での就労を目指す方とは違うと思われれます。先に述べたように「一人ひとりにとっての自立や働く」が何であるかが大切と考えています。

なのみ工芸では、利用者の「働く」意味を、必ずしも「物を生産する」、「収益を上げる作業結果」に置いてこなかった歴史があります。具体的には、自宅から施設までの通勤が、私たち職員の勤務と同じ「重み」を持っていれば、通勤だけであっても「作業」とみなし工賃を支給してきました。制度の変遷等もあり、現在も全く同じということではありませんが、自宅から通所し、自分で出来る作業一部分であっても参加することで、社会との繋がりを持つことが出来れば、その方にしかできない「働く」であり「自立」であると考えています。

## ②「自立」・「働く」の支援者

それぞれの「自立」・「働く」を実現する為には、家族、施設職員だけではなく、利用者のライフステージに寄り添う多くの方々の支援が必要となります。利用者の人生を考えていく中で、数人の人間が関わるだけでは限界があることも想像できます。

一般就労を支援するにあたっては、ハローワークや障害者職業センター、就業・生活支援センターなど関係機関の支援、もちろん障害者雇用に積極的で、実習に協力してくれる企業の存在も欠かせません。

福祉的就労を行いながら、社会参加している利用者の支援においては、授産品の作成過程でボランティアさんに製品アドバイスや、作成協力を頂くことも多く、その協力で作成された授産品を販売する機会を「まごころ製品」と銘打って展開してくれている県福祉課をはじめとした公的機関の協力があります。「自立」という意味では、生活支援を行って頂けるボランティアさんも多いと思います。利用者や施設に様々な形で関わって頂けるボランティアさんは、施設内で毎日を送り、施設内での常識により視野が狭くなりがちな施設職員の支援に対し、一般常識を備えた幅広い視野で方向性のアドバイスを自然な形で伝えていただける貴重な存在であり、利用者にとっても新鮮な関わりを持てる存在であると思います。

なのみ工芸においても、授産品の作成を始め多くのボランティアさんの協力を得ています。様々な障害をもっている利用者に関わっていただけていますが、あくまでも自然な形で関わって頂ける地域の方々です。障害特性により、配慮を必要とするケースもありますが、専門知識によって頭が固くなりがちな職員に対して、「障害者と関わる」のではなく「人と関わる」という支援の基本を自然に教えていただける存在と思います。

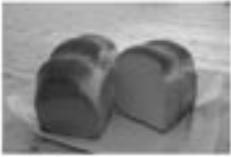
障害を持たれている方へのボランティアを始めたばかりの方は、戸惑うことが多いと思いますが、支援を必要としているのは、一人の「個性ある人間」です。障害者と関わるという意識は日々の関わりの中で、自然となくなっていくと思います。「福祉」とは「相手の立場になって考えること」と思います。不思議な行動をされる方が居れば、その方の気持ちになって考えてみると、答えは意外と簡単だったりするのではないのでしょうか。



○障害者がつくる製品やサービスを総称して「まごころ製品」とネーミング  
 ○以下の4部門で34施設と共同し「まごころ製品」の普及を促進  
 ○障害者施設では、弁当・産産加工品などの食料品や、印刷・清掃などの各種サービスを提供



平醸酒「自立」(9施設)  
 23年度 販売目標 12,000本  
 ・「障害者の皆さんが自立を目標として、まごころ込めて作った酒類」  
 ・「この酒類を飲む、障害者の皆さんの自立を支援する」という2つの意味



まぼろばパン(9施設)



もち(11施設)



さをり織りを取り入れた織製品(5施設)

### 収入向上に向けた今までの主な取り組み

- 平成19年度 4グループ化の決定（農業部門・菓子部門・パン部門・織製部門）
- 平成20年度 グループごとに共同開発製品を中小企業診断士を交え決定
  - ・農業部門：平醸酒「自立」
  - ・菓子部門：米粉を使用した焼き菓子
  - ・パン部門：産産小麦や九州産原材料を使用した「まぼろば」パン
  - ・織製部門：さをり織りをデザインに取り入れた織製品
 まごころ製品発本市の開催 39施設参加  
 産産加工品や提供しているサービスを「まごころ製品」とネーミング
- 平成21年度 製品づくりのノウハウを次期取り組み施設に普及  
 中小企業診断士の派遣により、向こう3か年の中期事業計画策定  
 緊急雇用事業を活用した販路開拓員により、「まごころ製品」紹介冊子を配布  
 まごころ製品キャンペーンの開催 14施設参加
- 平成22年度 まごころ製品キャンペーンの開催 14施設参加  
 「笑顔のお届け」一対事例発表、展示・販売会→3施設が参加【東京都で開催】
- 平成23年度 ・販路開拓を希望する施設に対し、(社)福岡県能力活用センターを誘い  
 販路開拓員を派遣(6月から) 現在20名の販路開拓員が活動中  
 ・パン部門・菓子部門の取組施設に対し、同上センターを通じ、製品改良員を派遣(6月から) 現在7名の製品改良員が活動中  
 ・全県合併会(18庁舎)で「まごころ製品」の定期販売を開始(8月から)  
 ・県主催イベントにおける「まごころ製品」の販売機会を拡大

### 障害者がつくる「まごころ製品」売上げ拡大事業(19年度の取り組み)

1 課題  
 ○障害者支援施設等では、障害者の自立に必要な訓練や働く場を提供  
 ○しかし、施設で働く障害者の収入月額は、約1万5,000円と低水準  
 ○産では、平成21年、障害者の皆さんが中心となって作った製品や提供するサービスを「まごころ製品」とも付け、販売促進に取り組む、収入の向上を図っている。

※「まごころ製品」とは  
 障害施設がつくる製品や提供しているサービス  
 (例)パン・菓子・製菓・弁当・デザート・木工品・清掃・印刷・産産加工等

2 課題  
 ○「まごころ製品」の認知度が低い  
 ○継続的に安定した販路が少ない  
 ○一社売場で競争できる製品と競争力が乏しい

➡「まごころ製品」の更なる売上げ拡大が必要

3 事業内容  
 ○高齢者の能力を活用した「まごころ製品」の売上げ拡大【(社)福岡県高齢者能力活用センターと連携】  
 ・元職人10人を雇用し、「まぼろばパン」や「米粉菓子」に取組む施設に派遣して製品改良と新製品を開発するとともに、取組施設を拡大  
 ・元営業職20人を雇用し、「まごころ製品」の新販路を開拓  
 ○販売イベントの開催  
 ・様々な場が主催する県イベントへの出店 ・組合庁舎や大型商業施設での定期販売  
 ○「まごころ製品ネットワーク」の構築  
 共同開発製品(4製品)ごとに取組施設をネットワーク化し、以下の事項を実施  
 ・同一ブランドの確立→販売戦略の統一、収益率の向上、品質の維持・管理  
 ・経営体制の改善→専門職による派遣や好事業等の紹介を内容とする研修会の実施

### ○販路と製品改良

施設開発員	12名	・販路開拓を希望する施設の商品カタログを作成し、商品や販売状況を説明、「まごころ製品」の取組施設に配布	6月～11月販路開拓員合計 約500名
製品改良員	7名	・県と共同で製品の改良等に取組む(パン・菓子・産産加工)の施設に派遣し、製品の改良や新製品の開発を実施	

### ○高齢者庁舎における販売

販売対象施設については、12月～1月間から14施設

販売店	販売品目	販売店	販売品目	販売店	販売品目
第1・2本棟	焼菓子	第2・3本棟	焼菓子	第1・2本棟	焼菓子
	パン		パン		パン
	漬物		漬物		漬物
	漬物		漬物		漬物
漬物	漬物	漬物	漬物	漬物	漬物

6月～11月販路開拓員合計 約700名

### ○県イベント等への出店

時期	会場	イベント名称
1月	福岡県庁	県多目的ホール展示会
7月	北九州空港	航空博覧会北九州開催出展
9月	天神中央公園	秋祭りのロードフェスタ(201)
9月	フリーマーケットプラザ グラウンド	フリーマーケットはフリーマーケット
10月	フリーマーケットプラザ グラウンド	フリーマーケットはフリーマーケット
11月	海の亭 高松公園	201福岡県民まつりお祭りフェスタ
12月	福岡センター	福岡モーターショー

出店施設の売上げ総額 約150万円

2012.2.19

辻 広明

# 「生きる力を考える～そうだったのか！ヒトの育ち」

～0歳から幸せな子ども時代を保障する環境づくりを！～

## 1. 「子どもらしい」って？ 子ども観の違いから

実況1：放課後の子どもたちの声!? 先生ってさ… お母さんがね…

実況2：「ちゃんとしなさい」「男やろ!」「・・・のくせに」

「うるさい」「すか～ん」「出て行きなさい」

叱る～怒る 子どもの権利って？ 誰が権利の保障を？ 「便所飯」って!?

子どもだから… そのくらい…

甘えられる安心の関係～自立・自律・上昇志向

甘やかしの環境～親が困難を除去し自立阻害～不安感、責任放棄…将来の苦勞

子どもも気をつかう～期待に応えたい

大事にしすぎて苦しいことから遠ざけ守る＝弱い子ども時代 ～ 将来

## 2. 「させられる」から「やりたいこと」の保障へ

保育所の役割は「養護と教育」 保育園も世の中の縮図!? 小学校も

養護って!? ①命を守る ②保健衛生 ③情緒の安定 ④生理的欲求を満たす

養護の3段階

i しっかり抱いて ii 下に降ろして iii 独りにして(過保護にしない!)

教育って!? ①自我能力 ②認知能力 を高める

教育は「能力を引き出すこと」 勉強・手伝い・習い事…

ちゃんと育てたい = 発達が保障されている!?

## 3. 感性を育てる = 人を、命を大切に作る心

子どもが健全に育つ為に必要な3つのこと

1. 親(夫婦)の愛 がある 2. 自然に触れる 3. 貧乏する

\*人は愛でしか変わらない(最大の教育は愛すること)

一人の「人」: 絶対的整数=確実な一人の価値～自尊感情・尊厳

社会人は、分母によって価値が決まる分子にすぎない

幸せを知るために、苦しみを経験=人間愛の感動、快い同情の喜び

\*自然(大自然・歴史・成り行き)に触れる、学ぶ

\*子どもの要求に応え続けるととんでもない子に! 宇宙の所有者と考える

子どものいいなりに!? 主導権症候群～道徳的歪みに!

「発達と学習の最高の段階が遊びだ」フレーベル

## 4. 現代のいじめと虐待

子ども社会はいつも残酷!? いいえ、正直なだけ! 群れ～戯れ、ふざけといじめ

「幼児期からの苦勞」「遊びの中での苦勞」が足りないと

①調整力・我慢できず、自己中心～思いやりが足りず

②辛さへの対処、仲間との共有が不十分、「群れの掟」に苦勞

育てられ方と愛着形成 「愛おしさ」を持てるように 負の連鎖を断ち切る

悪口、不平不満も虐待のうち ～ 子どもに

## 5. 生活の中心はどこ？ 食う・寝る・出す ⇔ 遊ぶ

夕方の会話で1日の振り返り 朝の会話で準備～ワクワク 毎日を楽しむ  
 放課後時間割り！ スケジュール（時間）管理は社会の基本  
 テレビ・ゲームとの生活が文化性を左右～非現実、音・光・RPG～情緒、人間の関係性  
 お手伝い：仕事を振り分け～段取り・役割を分担＝ リーダーの素質

## 6. 感覚（五感）を使って一緒に遊ぶ = なぜ？ = 感性 脳の旧皮質

遊園地より 海、山、畑、公園 親子でキャッチボール！ 届かないボールを！

## 7. 生きる力を育てるためには、育てる側の生きる力 常にプラス言葉

話題をつなぐ 上手な言い回し、たとえ話 「尋問でなく」  
 手伝おうか？ = 好かれてる。思いやり・通じあえてる。経験がある。余裕がある。  
 活動の共有（出来ることを増やす） 炊事・洗濯・掃除・買い物・修理  
 気持ちの共有（子どもに相談） どう思う？ どうしたらいい？  
 身体の成長 握力＝顎力＝学力：雲ていが出来ない!? = 生きる力は…

## 8. 人生、やり直しができる！ 挫折でくじけない力は安心できる環境で

成功・失敗の体験を～復活できる環境を～

## 9. 世の中は「サバンナ!？」 あなたはサバンナを想定している？

### I. 学習能力（国語・算数）が高い子は！（実態調査データ）

- ①毎日朝食を食べている ②家族とあいさつをしている ③手伝いをしている
- ④買いたいものなどを我慢できてる ⑤約束、役割を守れる ⑥家族みんなで過ごす時間がある
- ⑦今日の出来事を話してくれてる

### II. 寝ぬ子は肥る！ 学力・免疫力・集中力も（研究データ） 小学生は8時間寝ること

- ①満腹中枢の作用～過食抑制 ②脳に記憶、認知力 ③免疫力：脳を冷やし代謝を促す＝カゼ予防
- ④情緒の安定～意欲・イライラ防止 ⑤睡眠不足が不安・うつ・攻撃的

自分で起きる。時間を守る。出されたものを食べる。毎朝、排便する。人の話を目を見て聞く。上手にあいづちを打つ。場の空気をよむ。目上の人を敬う。など、幼児期から子どもたちが、大人として、社会人として適応していく能力を、遊びを通した子ども同士のかかわりやきめ細やかな生活支援の中から育ててあげたいと思っています。 晴明保育園「入園のしおり」より

memo

清明保育園

検索

## 分科会 子育て2 「子育て支援のいま昔」

子育て支援を続けて約11年、地域の特徴に添った子育て支援活動を行なっている4人が揃い、これからの子育て支援のあり方を考えていく。

コーディネーター 近藤幸恵 (NPO 法人子育てネットワーク春日顧問 春日市)  
 パネラー 星野敦子 (育児支援グループ「マミィ」代表 福岡市西区)  
 棚橋美智子 (日の里子育てサロン代表 宗像市)  
 安部幸子 (子ども広場サロン代表 福岡市東区)

### ○時代と子育ての背景 (近藤)

1. 立ち上げの経緯 (各自)
2. 立ち上げ時の苦労と問題 (各自)
3. これからの課題と支援のあり方 (各自)  
 ボランティア (スタッフ) とは  
 子どもが育つ環境とは  
 地域とは
4. 質疑応答

### コーディネーター 近藤 幸恵 プロフィール

1999年 神戸市サカキバラセイト事件後「人は人の中で育つ 大人も子どもも 手をつないで豊かな人の森になる」をテーマに「子育てネットワーク春日」を設立  
 2000年 第1回ふくおか子どもすくすくフェスタ実行委員会委員長 (財)福岡県地域福祉財団共催  
 2001年 民生委員主任児童委員 (5年間)  
 2002年 敬宮愛子様ご誕生記念「親子の広場」を国から委託される。(3年間)  
 2005年 つどいの広場を春日市から委託受ける (7年間)  
 2002年 福岡県地域家庭教育推進協議会「子育てアドバイザー」を務める。(6年間)  
 2006年 福岡県代表として内閣府において、子育て支援について提言する。  
 福岡県主催女性研修の翼事業に参加し、ドイツ、スウェーデンの子育て支援を研修する。

## パネラー 棚橋 美智子（日の里子育てサロン代表 宗像市）

### プロフィール

元幼稚園教諭

1993年 育児サークルちびっこ探偵団を立ち上げる。

1999年 子育てネットワーク「こねっと」を立ち上げる。代表を9年間務める。

2001年 9月に日の里子育てサロンを立ち上げ、2002年から中学3年生家庭科の実習の場として、乳幼児との交流を深めている。

2002年度～2005年度、福岡県地域家庭教育推進協議会「子育てアドバイザー」を務める。

2005年度から現在、宗像市子育て支援事業「宗像市子育て支援センター ふらっこ」を子育てネットワークこねっとが受託運営する。

### 活動

#### 1. 立ち上げ経緯

1993年第3子の出産後、子育ての悩みなどで閉塞感や不安感があり、近所の友達と当事者同士の育児サークル「ちびっこ探偵団」を立ち上げ子育て感を共有する。

1999年1月に子育て支援団体を「宗像ネットワーク こねっと」立ち上げる。その後、宗像市で体系的に子育て支援を行なっていくことの必要性と重要性を教育委員会と協議し、子育て講座を教育委員会からの補助金で開催。

2001年9月、中学校の空き教室で「日の里子育てサロン」を開設し、家庭科の授業として中学生との交流を行なう。（行政各所管と連携し中学生の妊婦体験ワークショップは年1回開催）

※24年度の中学校家庭科の教科書に「日の里サロン」の様子が掲載される予定。

#### 2. 立ち上げ時の苦労と問題

場所の確保：乳幼児向けの部屋ではなかった為、安全確保が大変だった。

人材の確保：子育て支援ボランティア講座受講者をスタッフに誘う。

活動資金の確保：県の委託金（15万円）で始める。

#### 3. これからの課題と支援のあり方

- ・「日の里子育てサロン」のように青少年と幼児の交流の場を宗像全市に広げる。
- ・活動をするに当って、責任の代償としてある程度の賃金が必要と考える。

## パネラー 星野 敦子（育児支援グループ「マミィ」代表）

### プロフィール

1996年西市民センターボランティア養成講座受講、受講者で、「育児支援グループマミィ」を立ち上げ西市民センターを活動の拠点とする。（現在活動中）  
 2002年度～2008年度、福岡県地域家庭教育推進協議会「子育てアドバイザー」を務める。  
 2005年～2008年西区子どもプラザ運営委員として、立ち上げから関わる。  
 2009年度～子育て人材育成支援事業実行委員会委員長として、西区役所と協働で事業を行う。  
 育児支援グループマミィ事業として「マミィの会」「ウエルカムパーティ」「マミィのクリスマス会」  
 現在、公民館で、「育児サークルきりんクラブ」の立ち上げ、「ベビーサークルこりす」を運営して、不安を抱えるママたちの為に仲間作りの支援を行う。

### 活動

育児支援グループマミィとして  
 平成15年度福岡市教育委員会表彰授与  
 平成23年度福岡市西区長ありがとうカード授与

#### 1. 立ち上げ経緯

夫の転勤で、だれも知らない土地で子育てする事の大変さを体験している自分に出来る事と考え、「子育てボランティア養成講座」の受講者募集を見て申し込む。

福岡市西区は転入出者が多く、周りに知人がいない子育て世帯が多い。そのサポートとして、福岡市内で、最初に子育てサロン「マミィの会」を開設する。

西市民センターと協働で、子育てフェスタ、育児サークル交流会、子育てボランティアの養成講座等を企画運営する。

#### 2. 立ち上げ時及び事業継続の苦労

場所の確保：打ち合わせ等会議室の確保はスムーズにできた。

子育てサロンの部屋は図書館と相談の上、児童図書室に確保できた。

人材の確保：ボランティア養成講座でスタッフを確保した。

活動資金の確保：センターと共催事業なので活動できた。

しかし、センター担当者や図書館の館長の交代と共に、相談室の利用や子育てサロン会場として図書室の利用ができなくなる。また、区役所の機構改革とともない、「子育てボランティア養成講座」「子どもフェスタ」などの事業が取止めになる。ボランティア養成講座は「市民企画講座」として行なわれるようになった。

また、「子育てフェスタ」は西区役所の「はじめのいっぽ事業」「やる気応援事業」などで得た、自らの講師謝金や様々な助成金を獲得し、地域ボランティアの協力と共に継続にこぎつける。

#### 3. これからの課題と支援のあり方

現在は、子どもプラザや各校区に子育てサロンが出来ることで親も子どもたちも仲間作りが出来た。親同士の情報交換や子育て不安を解消する事が出来るようになった。

地域は、子育て支援の必要性を感じるようになってきている。これからも子育て世帯への理解を得る事や、サロン等で活動する子育て支援者の高齢化と人数不足を解消していかなければならない。

## パネラー 安部 幸子（子ども広場サロン代表 福岡市東区）

### プロフィール

#### 幼稚園教諭

その間様々な子育て支援講座を受講する

出産を機に幼稚園を退職

子育て終了後

1994年4月 公民館児童地域文庫開設 終日利用、貸出の実施を行なう

「保育ボランティアかすみ草」を設立し代表となる

2000年7月 公民館の月曜開館を期に「全館開放型子育て支援 ハムエッグサロン」

を立ち上げる。10時から17時まで開催。

2006年4月 「校区老人いこいの家」が子育て支援事業に開放されることになり、地域子育て支援「子ども広場サロン」立ち上げる。水曜10時～17時開催。

同時に「子どもと高齢者の交流広場」を始める。第4土曜日 10時～17時開催

●福岡子どもネットワーク会員 ●福岡県アンビシャス運動に参加

2002年～2008年 福岡県地域家庭教育推進協議会「子育てアドバイザー」を務める

福岡市読書ボランティア養成講座受講、  
福岡市東区保育ボランティア養成講座受講、  
福岡県ボランティア養成講座受講

### 活動

#### 1. 立ち上げ経緯

核家族による母親の育児不安解消に向け「楽しく育児」をテーマに活動を行なう。

- ・母親の居場所づくり
- ・子育ては大変だけど、子どもの成長をみんなで楽しみ実感できる「ママ友」づくり
- ・子育て先輩からの子育てアドバイスを聞く場所づくり → フリースペースとなる
- ・近所付き合いが広がる 地域の子どもと高齢者の交流の場所づくり食育指導、みそ造り、手作り調理実習、昔遊び、子どもの病気、等々
- ・校区小学校6年生による「マイプラン」活動 毎水曜日 昼休みの15分～20分  
内容：サロンの幼児と遊ぶ、  
小学校の入学式・卒業式に生花アレンジメントをつくり学校に飾る 等

#### 2. 立ち上げ時の苦労

#### 3. これからの課題と支援のあり方

「幼老共生」を意識した事業の展開

さるこいウォーキング実行委員会 今村 利光 氏



### 国産菜種を取り巻く現状

- 国産菜種の収穫量 1,570t(H22年産) 1956年産(54年前) 320,000tをピークに減少の一途
- 主な産地 北海道と青森県で39%(面積) 九州は全体の17%程度
- 製油量 国産菜種原料 0.03%
- 輸入原料 カナダ産(ほとんどが遺伝子組み換え作物)、オーストラリアなど

### 菜種作付圃場の推移

	H21年産	H22年産	H23年産	H24年産
今村利光	15,723㎡	14,825㎡	17,150㎡	21,874㎡
今村重徳	2,847㎡	2,847㎡	2,847㎡	2,847㎡
古賀泰弘				8,500㎡
計	18,570㎡	17,672㎡	19,997㎡	33,221㎡
収量	4,820kg	3,734kg	3,125kg	? kg

大木菜種生産組合



### 食用油を取り巻く現状

- 食用油の自給率 油脂類全体で14%  
植物性油脂で3%  
(菜種油の99%以上は輸入品)
- 原料 カナダ産(ほとんどが遺伝子組み換え作物)、  
インド、フランス、オーストラリアなど
- 搾油方法  
経済効率を良くするため揮発性の高いノルマルヘキサン(石油製品)を使用するケースが一般的
- 精製・脱色・酸化防止・消泡 様々な化学薬品を添加(苛性ソーダ、シュウ酸、リン酸など)

### 大木町ブランド「環のかおり」が誕生



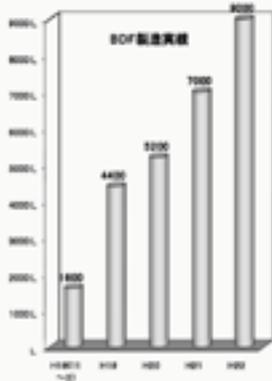
道の駅おおき「くるるん夢市場」、  
福岡市JAタウン  
で限定販売

定価: 1000円



組合長の今村利光さん

### 食用廃油を軽油の代替燃料BDFに!



### 地域コミュニティの育成



地元子供会との手植え交流

### 4月上旬



「菜の花さるこい  
ウォーキング」開催



「菜の花ひよっとこ  
会」が発足

## おごおり環境クラブ

代表 中村耀子

私たちは小郡市で活動している「おごおり環境クラブ」です。  
 私たちおごおり環境クラブは、おごおり女性協議会の一団体として所属しており、  
 会員25名で活動しています。

### 小郡市の紹介

人口 59,297人（平成24年1月現在）  
 世帯数 22,056世帯（平成24年1月現在）

小郡市は、筑後地域の北部に位置しており、面積46km<sup>2</sup>の自然豊かな田園都市です。  
 西鉄天神大牟田線が南北に走り、市内に7駅を有しているため福岡市や久留米市への通  
 勤圏となっています。また、九州自動車道と大分自動車道が通っており、交通の要衝と  
 しての地域でもあります。

観光資源として、杉原藤や松崎密の板馬場、花立山などがあり、四季折々の自然に恵  
 まれています。また、日本で唯一、織姫が奉られている「七夕神社」もあり、毎年にご  
 やかなイベントが行われています。

### 私たちの活動目的

- (1) 川の水を汚さない
- (2) 美しい環境を守る
- (3) 家庭から出る廃油のリサイクル

### おごおり環境クラブのあゆみ

- ◇ おごおり環境クラブの前身 小郡市婦人会が30年ほど前から石けん作りを始  
 める。  
 ↓  
 プリン状石けん→固形石けん→手軽に出来る牛乳パック石けん
- ◇ 市のイベント等で牛乳パック石けんづくりの体験学習を行い市民へ広める
- ◇ 出前講座立ち上げ（10年程前）  
 ↓  
 校区公民館・各種団体・サークル団体など  
 ↓  
 その後市内の小学校
- ◇ 小郡市婦人会解散へ（平成19年3月）  
 ↓
- ◇ おごおり環境クラブとして発足（平成19年4月）  
 ↓
- ◇ 現在に至る

### 現在の活動状況

- 1斗缶、発泡スチロールによる石けん作り（年間5回～6回）  
 石けん作り → 翌日小さく切る → 1ヶ月後袋詰め  
 → 校区公民館、生涯学習センター、市役所売店などに配置
  - 牛乳パック石けんの出前講座（※要請があればゴキブリだんごの講習も行う）
    - ◆ 校区公民館・各種団体・サークル団体など
    - ◆ 出前講座の依頼のあった市内小学校（環境学習をしている4年生が対象）
- ※ 材料の苛性ソーダ、ホウ酸は女性協議会の「環境を守る活動」の団体として、  
 小郡市環境衛生組合連合会より現物支給していただいている。

### 出前講座の活動状況

年 度	会の名称	講座の回数	受講者数
H. 18年度	小郡市婦人会	11回	255人
H. 19年度	おごおり環境クラブ	9回	488人
H. 20年度	”	14回	641人
H. 21年度	”	17回	653人
H. 22年度	”	14回	508人
H. 23年度	”	15回	463人

### その他の協力活動

- 小郡市民祭り参加。総踊り終了後の美化作業に参加。
- おごおり市民文化祭、おごおり音楽祭等。廃油せっけん及びコーヒー等販売。
- 小郡市陸上競技連盟主催のマラソン大会の参加者へぜんざいを提供。  
 （約3,000人参加）

小学校で行った出前講座の様子



出前講座を受けた小学生からの感想文



感想文からの抜粋

- ・廃油せっけん作りを教えてくださいました。
- 私が作った廃油せっけんは固まりました。家に持って帰って磨ってぞうきんを洗ったら“ビッカピカ”になりました。
- ・廃油でせっけんなんかできるのかなと思いました。20分かき混ぜるのはきつかったけど、ちやんと固まったせっけんを見て、作ってよかったです。

廃油せっけん作りの道具、配置の様子



牛乳パックを使った廃油石けんの作り方

この方法は、小さな容器で簡単に作れるところが魅力です。皆様にも是非挑戦していただきたいと思います。

【材料】・苛性ソーダ(水酸化ナトリウム) 40g ・水 80cc ・廃油 300cc

【道具】・牛乳パック ・はかり ・計量カップ ・菜箸 ・軍手

【作り方】

- ① 牛乳パックに水80ccを入れます。
- ② ①に苛性ソーダ40gを入れます。このとき、化学反応で熱を出し、蒸気があります。
- ③ 熱いうちに、廃油300ccを入れ、20分位しっかりと混ぜます。
- ④ 翌日には固くなりますが、すぐに使うと手が荒れるので、1ヶ月くらい置いてから使ってください。

【石けんの使い道】

食器、台所用品、換気扇、ガスレンジ、流し台、雑巾、運動靴、ソックス、作業服、軍手、白衣、風呂、タオル、便器、プラスチック製品、自動車、スチールデスクなど

ゴキブリ退治用ホウ酸団子の作り方

【材料】約5～6人分

- ・玉ねぎ300～350g(小3個) ・小麦粉140g(1.5カップ)
- ・ホウ酸500g(1袋) ・砂糖35g(大さじ3) ・牛乳大さじ1杯

【道具】

- ・フードプロセッサー ・はかり ・計量カップ ・計量 ・スプーン ・ボウル

【作り方】

- ① 玉ねぎの皮をむき、フードプロセッサーでおろし、適度に絞ります。(絞りは、あとでこねるとき強いようなら加える。)
- ② ボウル等の容器にホウ酸、小麦粉、砂糖、牛乳を入れて、よくかき混ぜます。
- ③ 玉ねぎを加えて、しっとりするまでよくこねます。(強い場合は、玉ねぎの絞り汁を加え、さらふくらの粉にします。)
- ④ 1個を15～20g(直径3cm)くらいにまとめます。
- ⑤ 天日にしっかりと干します。(しっかりと干さないとかびが生えます。)

【ホウ酸団子の設置場所】

食器棚、流し台下、引き出しの奥、冷蔵庫の下、ガスレンジの下など、暗くて狭い空間に置き、数ヶ月から1年で取り替える。

★ホウ酸は有毒です。乳幼児が誤って食べないように注意してください。

# 「学び合い塾について」

子育てネットワーク春日 横大路 祐典

## 1. 「学び合い塾」とは

概要：子どもの心身の健全育成及び発達に必要なものは擬似体験と実体験と集団で群れて遊ぶことが必要である。しかし、子どもを取り巻く環境はゲームで遊ぶ等の擬似体験が非常に多く実体験不足で青少年犯罪も多く「子どもたちが見えなくなった」と言われていた。また、社会の教育力の低下により子どものマナー違反を見ても「見て見ぬふり」の大人が多く、子どもを叱る大人や子どもに真剣に向き合う大人が激減していた。このことは子どもにとって非常に不幸なことである。

子どもはいつの時代も無垢の状態生まれ、実体験と大人という環境の中で社会の規範やモラル、ルールを学び、近くの大人を手本として成長するものであり、手本となる大人の姿が必要であると考え、2002年から「学び合い塾」を行なうこととした。

活動開始 2002年～2011年 現在9年間継続      活動数      57（特別企画含む）  
 卒塾生 360人                      スタッフ 162人

## 2. コンセプト

五感を使い発達させる

自然環境意識を高める

「創造性を培い」「人を学ぶ」ことを大切にし、子どもが安心し、イキイキとした活動ができる空間の保障

## 3. 塾生とは

●小学校4年生～中学生 36人～40人

※学校、友達を別々し、個が表現できるように配慮し4グループに分ける

●自立心を高めるために、申込みから送迎のお願い、弁当づくり、準備等々全て子ども自らが行なう。

●約束：

## 4. スタッフとは

子どもに真に向き合える大人集団をつくり、地域では育成会の役員やPTA役員などになるきっかけとします。なお、ミーティング 各活動の事前事後（計12回）ミーティングを重ね、子どもの個性や特質をつかみ子どもを成長させる適切なアドバイスができるようにする。

●事前ミーティング&現場調査・下見

事後ミーティング → 当日、個人、グループ、全体などのあらゆる角度からまとめ次に続ける

●心得

## 5. 活動について

子どもの活動 年6回、

事前保護者会 → 子どもの特質を聞き取りや市長課題などを把握する

事後保護者会 → 子どもの成長を全体で感じ、子どもを認め、新たな認識を促す

講師 → 専門家（大学教授・講師、水生生物調査員、野鳥調査員、地学博士、元自衛隊員等）

最後に、この活動は大人が真剣に子どもと向き合うことが、子どもが社会貢献できる大人に成長すると考えの下、「空間の提供」と「遊び心」がとても重要な活動であると考えています。

# 「飯塚市熟年者マナビ塾の取り組み」

## 1. 地域の概要

### (1) 飯塚市の概要

本市は、面積 214.13k m<sup>2</sup>、福岡県のほぼ中央に位置し、東は田川市を中心とする田川圏域に、西は福岡市を中心とする福岡都市圏に、南は嘉麻市に、北は直方市を中心とする直方・鞍手圏域にそれぞれ接しています。

人口は、平成 22 年の国勢調査時点で 131,492 人、世帯数は 53,437 世帯となっています。平成 17 年の国勢調査と比較すると、人口は 133,357 人から 1,865 人減少していますが、都市化の進展や核家族化の進行等により、世帯数は 52,374 世帯から 1,063 世帯増加しています。1 世帯当りの世帯人員は平成 17 年の 2.55 人から平成 22 年には、2.46 人まで減少しています。

市内には、中央公民館を含めた公立公民館が 13 館、小学校 22 校、中学校 12 校を有しています。

平成 18 年 3 月に飯塚市・穂波町・筑穂町・庄内町・穎田町の 1 市 4 町で合併し、新しい飯塚市として今日に至っています。

### (2) 事業導入の背景

#### ①子どもたちの実体験不足について

○今も昔も、「やったことがないことはできない」「できないことは待っていてもできるようにならない」

○今は、「百聞は一見に如かず」から「百見は一体験に過ぎず」に。

○共に、実体験することの重要性を説いているが、現実は・・・。

#### ②地域コミュニティの再構築について

○著しい社会の変化の中で、貧乏と不便が家庭や地域の教育力を支えていた過去の地域共同体の再現は困難。

○新しいコミュニティ形成の核は学校。地域の学校支援から学校が地域を支援する時代。

#### ③地域の教育力向上について

○学校開放は叫ばれつつも現実進んでいない。⇔学校にすべてを任せる風潮。

○学社連携事業のモデルが乏しい。

## 2. 事業の内容

### (1)事業の目的

市町村が直面している課題を教育行政の立場から解決するために、高齢者と児童を結びつける新規事業を実施したものが「飯塚市熟年者マナビ塾」事業である。

○このような活動を通して、熟年者の力を学校教育に活かしていき、児童の健全育成、開かれた学校づくり、学校の活性化を狙いとしている。

### (2)事業の概要

熟年者マナビ塾では、熟年者が小学校（余裕教室）に通い、学校の授業時間に合わせて、自主的に学習したり、学校支援ボランティアとして活動したりする。

①場 所：小学校の余裕教室

- ②期 間：毎週1回、学期単位で開催（1学期、2学期、3学期）
- ③時 間：8:50～11:30（各学校の授業時間に合わせる）
- ④内 容：自主学習と学校支援ボランティア
- ⑤運 営：自主学習・自主運営を原則とし、各塾に塾長（代表）及び会計を置く
- ⑥会 費：1回につき100円（会計が徴収）

### 3. 事業成果

#### (1)先生の感想

- 塾生の方との交流の場面で、子どもたちの優しい姿、楽しそうな姿を見ることができた。
- 担任だけでは手が回らないところへ援助していただき、授業の効果があがった。
- 塾生の方が学校にいるということで、学校の安全の確保が向上した。
- 合唱を見ていただくことで、子どもたちに適度な緊張感や、達成感を感じさせることができた。

#### (2)参加者の感想

- 日常的に子どもたちと触れ合うことができ楽しい。
- 地域で子どもたちと会うと「マナビのおばちゃん！」と声をかけてくれる。
- 地域で子どもたちが危険なことをしている場面に出くわしたとき、顔見知りなので注意がしやすい。
- ゲストティーチャーとして地域の歴史や昔遊びの話をしているとき、子どもたちが目を輝かせて自分の話を聞いてくれる。
- ゲストティーチャーの活動後、「次はこんなことを教えてやろう」とか「この点を工夫しよう」と考えることは楽しい。

### 4. 今後の展望

- 青少年の健全育成を推進するには、学校・家庭・地域の連携と、子育て世代とそれ以外の世代の協力が必要。
- 熟年者マナビ塾事業で行われる「日常の何気ない交流」が、学校外にも波及することを目指す。

## つくし路 100 km 徒歩の旅とは

つくし路 100 km 徒歩の旅実行委員会副団長 井上孫紹

事業名称 第14回つくし路 100 km 徒歩の旅～東日本応援 100 km 徒歩の旅～  
 主催者 つくし路 100 km 徒歩の旅実行委員会  
 後援 福岡県教育委員会・筑紫野市教育委員会・太宰府市教育委員会  
 大野城市教育委員会・那珂川町教育委員会・春日市教育委員会  
 (社) つくし青年会議所・つくし青年会議所シニアクラブ  
 協賛 (社) つくし青年会議所・つくし青年会議所シニアクラブ他  
 事業実施日時 平成 23 年 8 月 8 日 (月) ～ 12 日 (金)  
 参加者 小学校 4 年～6 年生 143 名  
 (宮城県「おおさき 100 km 徒歩の旅」6 名、「みなとのまち 100 km 徒歩の旅」9 名)  
 学生スタッフ 59 名 中高生スタッフ 18 名 社会人ボランティア 33 名

### ●事業の歴史

1998 年社団法人つくし青年会議所 (以下つくし JC) の主催により、青少年育成事業である「つくし路 100 km 徒歩の旅」が開催され、2002 年より発展的につくし JC の主催から市民主導の主催へと移管させていただき、今年で 15 回目を迎えようとしております。当事業は回を重ねるごとに着実に地域に浸透し、役割も増していることが感じられます。

第 1 回 (1998 年) ～ 4 回 (2001 年) 主催: (社) つくし青年会議所

第 5 回 (2002 年) ～ 主催: つくし路 100 km 徒歩の旅実行委員会

### ●事業概要

小学 4 年生～6 年生の参加を募り、8 月 8 日～8 月 12 日の日程で、私たちの生活圏である、福岡県筑紫野市、太宰府市、春日市、大野城市、那珂川町 (旧筑紫郡) の 100km のコースを 4 泊 5 日かけ徒歩にて歩きぬく事業です。宿泊先は、エリア内の各小学校等の体育館等で宿泊します。参加する子どもを 10 人程度の班に分け、班ごとに二人の学生スタッフがお世話をします。また、生活班 (主に食事の用意)、輸送給水班、救護班、広報班、記録班、セーフティーネット班など全て学生スタッフ及び社会人スタッフを主体とした実行委員会によって行われます。事業実施は学生スタッフ主体で行われ、社会人スタッフはアドバイザー的な立場で学生スタッフをサポートします。

早朝 5:00 に全員が起床し、1 日 15km ～長い日で 30km、合計 100km を 5 日間かけて歩きます。過去、殆どの子どもが完歩しています。当然、途中で足にまめができる子や、ホームシックにかかり泣きじゃくる子、様々ですが、子ども同士の助け合い、スタッフのサポートにより、自力で壁を乗り越え最終日のゴールでは灼熱の太陽の日差しを全身に受け真っ黒に日焼けした一回りも二回りも、見違えるように大きく成長し、自信に満ち溢れた子どもと保護者との感動的な涙の再会となります。まさに、体験を通しての生きる力の醸成につながるものと考えます。体験こそ学びであり、学びこそ成長や幸せにつながると感じます。そんな素晴らしい貴重な体験学習です。

### ●全国 100 km 徒歩の旅推進協議会

2003 年には 100 km 徒歩の旅が全国に拡がり、主催団体を統括する全国 100 km 徒歩の旅推進協議会が立ち上がりました。会長は梶原日出男つくし路 100 km 徒歩の旅団長で、年数回全団体が集まり研修などを行っております。

全国 100 km 徒歩の旅推進協議会公式行事

1 月 総会及びキックオフ宣言 (京都)

3 月 団長研修 (各地)

10 月 福岡会議 (福岡市内)

全国各地の100km徒歩の旅開催状況

震災により2011年開催中止(5団体)

第3回カシオペア100km徒歩の旅

第7回みなのまち100km徒歩の旅

第9回おおさき100km徒歩の旅

第4回あいづ100km徒歩の旅

第4回寺子屋つばさ100km徒歩の旅

第9回はが路100km徒歩の旅

第3回越後つまり100km徒歩の旅

第8回おおた100km徒歩の旅

第6回あいのまち100km徒歩の旅

第6回彩の国100km徒歩の旅

第2回かなざわ100km徒歩の旅

第5回ひらた100km徒歩の旅

第4回久慈の杜  
100km徒歩の旅

第7回西茨城100  
km徒歩の旅

第6回むさし100  
km徒歩の旅

第5回常総100km徒歩の旅

第6回いちほら100km徒歩の旅

第7回あきる野100km徒歩の旅

第4回いなん100km徒歩の旅

第8回となみ野100km徒歩の旅

第9回おのみち100km徒歩の旅

第6回なかつ100km徒歩の旅

第14回つくし路100km徒歩の旅

第9回鹿児島100km徒歩の旅

**ZEN100**

全国100km徒歩の旅推進協議会